

回 図は乾湿計の一部を拡大した模式図であり、表1は乾湿計用湿度表の一部を、表2は気温と飽和水蒸気量の関係を表している。次の(1)～(5)の問いに答えなさい。

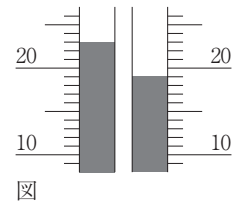


表1

乾球の読み 〔℃〕	乾球と湿球との目もりの読みの差〔℃〕							
	0	1	2	3	4	5	6	7
25	100	92	84	76	68	61	54	47
24	100	91	83	75	68	60	53	46
23	100	91	83	75	67	59	52	45
22	100	91	82	74	66	58	50	43
21	100	91	82	73	65	57	49	42
20	100	91	81	72	64	56	48	40
19	100	90	81	72	63	54	46	38
18	100	90	80	71	62	53	44	36
17	100	90	80	70	61	51	43	34
16	100	89	79	69	59	50	41	32

表2

気温〔℃〕	16	17	18	19	20
飽和水蒸気量〔g/m ³ 〕	13.6	14.5	15.4	16.3	17.3
気温〔℃〕	21	22	23	24	25
飽和水蒸気量〔g/m ³ 〕	18.3	19.4	20.6	21.8	23.1

~~~~~省略~~~~~

- (2) 乾湿計が図のようなとき、湿度は何%か、書きなさい。
- (3) ある日の昼間に乾湿計を見たところ、気温が20℃、湿度が56%であった。このときに空気に含まれている水蒸気量は何g/m<sup>3</sup>か、小数第2位を四捨五入して求めなさい。
- (4) 冬の日、あたたかい部屋の窓ガラスに水滴がついていることがある。この理由を「露点」という語を用いて書きなさい。ただし、「部屋の中では、窓ガラス付近の空気の温度が、」で始まり、「水滴となって、窓ガラスにつくため。」で終わるように書くこと。

~~~~~省略~~~~~

【答】(2) 67 (%) (3) 9.7 (g/m³) (4) (部屋の中では、窓ガラス付近の空気の温度が、)周囲よりも低く、露点以下になり、空気中に含まれている水蒸気が凝結して(水滴となって、窓ガラスにつくため。)(同意可)